



心豊かでたくましく 共に生きる子ども

# ひらかた

2月号

令和7年1月31日

上尾市立平方小学校

校長 大野 和孝



ホームページ [上尾市平方小学校](#) [検索](#)

QRコード

## ～ 啐啄同時（そったくどうじ） ～

校長 大野 和孝

寒い日が続きますが、校庭では寒さを吹き飛ばす子供たちの元気な声が響き渡っています。休み時間に校庭を走り回る様子から、昔も今も「子供は風の子」だと思ってしまいます。2月は1年の中でも短い月であることから、あっという間に逃げてしまうとも言われています。2月3日は「春が立つ」と書いて春の季節の始まりとされる「立春」と言われる日です。昔の暦では、この頃が1年の始まりであるとされていました。立春の前日は「季節を分ける」という意味がある「節分」です。草木や動物にとっては目覚めの季節、私たちにとっては、次年度の準備をはじめのタイミングでもあります。

さて、教育では、学習の適時性がとても大事になります。子どもの発達段階や経験に応じて、適した内容を卒業までの6年間を見通して、いつどのような学習を実施するかを計画します。1時間の授業で見ると、習ったことを活かせるような課題を提示したり、子供の生活経験から気付くことができる資料を活用し、学びを深めていったりしています。子供が新しい学習に困っているときは、友達の発言や教師の助言によって解決できるようタイミングを大事にしながら指導を行います。また、まとめの時期を意識させ、次の学年への心の準備をさせることも大切です。

学びに適した時期に、子供の学びのタイミングに合わせて、指導や助言ができればより大きく成長させることができるでしょう。しかしながら、学びのタイミングは明確に見て分かるものではありません。最高のタイミングで指導するという事は非常に難しいものがあります。まさにこれらを表した四字熟語として「啐啄同時（そったくどうじ）」という言葉があります。

「啐啄同時」とは、鳥のヒナが卵から生まれ出ようと殻の中から卵の殻をつついて音を立てた時、その音を聞きつけた親鳥がすかさず外から卵をついばんで殻を破る手助けをすることを意味しています。早すぎても、遅すぎてもいけません。「同時」であることで命が誕生します。

これは、教育者として私たちが大切にしなければいけない姿勢であり考え方ですが、子育てにも通じるものだと考えます。私自身、周りの子（教え子）ができていから、兄弟ができたから、とって我が子に接してしまったことがあったように思います。子供のためを思ってなのか、親の思いを分かってほしかったのか、……。色々考えさせられながら、我が子と「同時」ではありませんが、少しずつ父親として成長していければと思っています。

今年度も残り2か月となりました。日々の子供たちの変化を見逃さず、学校・家庭・地域が「啐啄同時」に協働し、「子供が目を輝かせ、生き生きとしている学校」を実現してまいりたいと思います。引き続き、ご理解、ご協力をよろしくお願いいたします。